

## 平成 29 年度 【 学園研究費助成金 &lt; B &gt; 】 研究成果報告書

学部名 人間関係学部

フリガナ

氏名 ヒラノヨリオ 平野 順雄

研究期間 平成 29 年度

研究課題名 詩と数学—アメリカ詩人チャールズ・オルソンの詩論研究

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	平野順雄	人間関係学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

アメリカ詩人チャールズ・オルソンの重要な詩論は、2つある。1つは、「投射詩論」(Projective verse, 1950)であり、もう一つは「等しいとは、現実そのものと等しいこと」(The Equal, That Is, to the Real Itself, 1965)である。両者ともに『人間の宇宙』(*Human Universe*, 1965)に収められている。「投射詩論」は発表後 67 年が経過したため、その提起した問題は再考されることのないまま解決済み扱いされてきた。これを今日的観点から再考するのが、今回の目的である。もう一つの詩論「等しいとは、現実そのものと等しいこと」を理解するには、詩論内で言及される数学者や物理学者の業績に対する知見が必要である。非ユークリッド幾何学、多様体、相対性理論を能う限り理解しようと努め、詩における数学の意義を考えたい。

## 2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

I. 「投射詩論」については、斎藤修三による先行訳(『現代詩手帖』1988 年 1 月号)が存在するが、①難解なオルソンの原文を自分の手で全訳する。②翻訳により明らかとなった解釈困難箇所の読解を試みる。③投射詩論に対する小批評史を作成する。④投射詩論の影響が及んだ範囲を考えるため、ブラック・マウンテン派詩人たちの作品を検討する。その際の必読書一覧を作成する。上記内容を『椋山女学園大学研究論集』第 49 号、2018 年発行、に投稿した。

II. 「等しいとは、現実そのものと等しいこと」については、①論文の全訳を試みる。②翻訳の過程で明らかになった解釈困難箇所(哲学、数学、物理学を含む)を読解する。③この詩論では、哲学、数学、物理学とメルヴィルの関係が述べられている。どのように関係づけられているかを解析する。④標題詩論がどのような特徴があるのかを論じる予定である。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

I. 「投射詩論」の研究は、上記「2. 研究の推進方策」にしたがって進めた。①新たな訳文を作成し、②解釈困難箇所を読解を試みた。③「投射詩論」に対する批評小史を作成したところ、著名な三人の批評家のうち二人が、D. H. ロレンスとの類似性を指摘していることが分かった。オルソンの詩論は、ロレンスの詩論と共通点が非常に多い。それも、人間が万物を支配する人間中心主義を、二人ともとらない点で共通しているというのだ。

三人のうちニューヨークで文壇に入った優秀な批評家は、ブラック・マウンテン派詩人を正しく評価できないようだった。オルソンの詩論を肯定的に紹介しようとしながら、ニューヨークの詩人ジェームズ・ディッキー(James Dickey)のオルソン批判に盲従していた。④「投射詩論」の影響がどれほどの広がりを持ったのかを、確定してみる必要がある。そのため、ブラック・マウンテン派詩人の主だった者とその作品、および伝記、書簡などを広く読むことにした。それが、投射詩論の射程を測る確実な方法だからである。1970年代のみならず、1980年代から90年代を経て、現在に至るまで「投射詩論」はどのような影響力を持ったのかを跡付ける。

II. 「等しいとは、現実そのものと等しいこと」の研究も、やはり上記「2. 研究の推進方策」にしたがって進めた。①論文の全訳を行ない、②翻訳の過程で明らかになった解釈困難箇所を読解しようとした。しかし、難渋した。哲学と英国ロマン派詩人への言及は、複数の書籍を参照することによって解読できたが、数学や物理学への言及、とりわけボーヤイとロバチェフスキーの非ユークリッド幾何学や、リーマンの多様体、およびアインシュタインの相対性理論に関しては、その内容を理解すること自体に多大な時間を要し、研究は停滞した。この事態から抜け出すことを急ぐよりも、上記学問への知見を得ることで、解釈困難箇所と正面から取り組み、能う限り正当な解釈を提出したいと考えている。そのうえで、③数学・物理学とメルヴィルの関係を解析し、④標題詩論の持つ意味に迫りたい。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①チャールズ・オルソン	②「投射詩論」	③「等しいとは現実そのものと等しいこと」	④非ユークリッド幾何学
⑤リーマンの多様体	⑥相対性理論	⑦『人間の宇宙』	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

「投射詩論」については、(1)「チャールズ・オルソン著『投射詩論』再考」(上)『椋山女学園大学研究論集』第48号、2017年、人文科学篇79-87頁、に発表した。(2)平成29年度の「チャールズ・オルソン著『投射詩論』再考」(下)『椋山女学園大学研究論集』第49号は、2018年3月発行予定。投射詩論と「投射幾何学」との関連を考察するのは将来の課題である。もう一方の詩論については、(1)「『等しいとは、現実そのものと等しいこと』について」(上)は、『人間関係学研究』第15号、2017年、57-63頁に発表した。その続編を執筆する予定であったが、非ユークリッド幾何学や多様体、及び相対性理論に対する理解が及ばず、本年度は原稿提出を断念した。①近い将来のうちに必要な知見を得て、②メルヴィルとの関係を手掛かりに標題詩論の根本的メッセージを究明し、③「『等しいとは、現実そのものと等しいこと』について」(下)を、『人間関係学研究』に投稿する予定である。